



生徒の皆さんへ

今週末に迫った第56回文化祭に向けて準備は着々と進んでいるでしょうか。未だに島内でも感染される方が続いており、まだまだ気の抜けない状況が続いています。そのために今年度も誠に残念ながら保護者などの入場は御遠慮いただき実施する運びとなっています。文化祭スローガンは「蒼春アオハル～巻き起こせ笑顔の嵐」に決まったと聞きました。是非とも笑顔の嵐が巻き起こるような感動と思い出に残る文化祭となるように、互いに協力を惜しまず成功させしましょう。

島ことば

とうとうがなし

与論や奄美などでよく使われるの島ことばに「とうとうがなし」という美しいことばがある。皆さんは耳にしたことがあるだろうか。

当て字では「尊々我無」とも書かれるらしい。文字の意味からすると、「我を無くして、相手を尊ぶ」みたいな意味に感じにとっつまわれがちだが、この解釈は間違いだそうだ。

正しくは「尊々加那志」と漢字で書かれるらしい。「加那志（かなし）」とは、「愛し・哀し」に由来する「神様もしくは尊い存在」という意味があるそうだ。つまり、「尊々加那志」は、それだけで「祈り」のことばになっており、神様を尊い、日々、感謝することから、「ありがとうございます」という意味を込めたことばとされる。

また、そこから転じて、どうしようもなく惹きつけられて、せつなくて、愛しくて切ないほど愛しいと思う気持ちを表現したことばともいわれる。「とうとう」は「尊い」で、「がなし」は「愛し・哀し」である。「ありがとうございます」のことばの中に、とても尊くて、大切に、常にあなたのことを誰よりも深く思っていますというような意味合いも含まれているようだ。

本土から約380km～580kmの南西海上に飛び石のごとく、つらなって浮かぶ奄美の島々は、この「とうとうがなし」の精神を脈々と受け継いでいる。とても美しく温かい”しまんちゅ”の魂に染み渡る島のことばである。北から、喜界島、奄美大島、徳之島、沖永良部島、与論島の五島は、島のことばこそ少しずつ違うが気持ちはひとつ、同じ心で、これからも美しく温かい魂を受け継いでいってほしいと思う。そして、沖高生も自分の郷土である沖永良部島に誇りを持ち、島外に出ても変わらず「とうとうがなし」の精神を忘れないでほしい。



読書への誘い（本校図書室に置いてある本）

「なぜ僕らは働くのか 君が幸せになるために考えてほしい大切なこと」

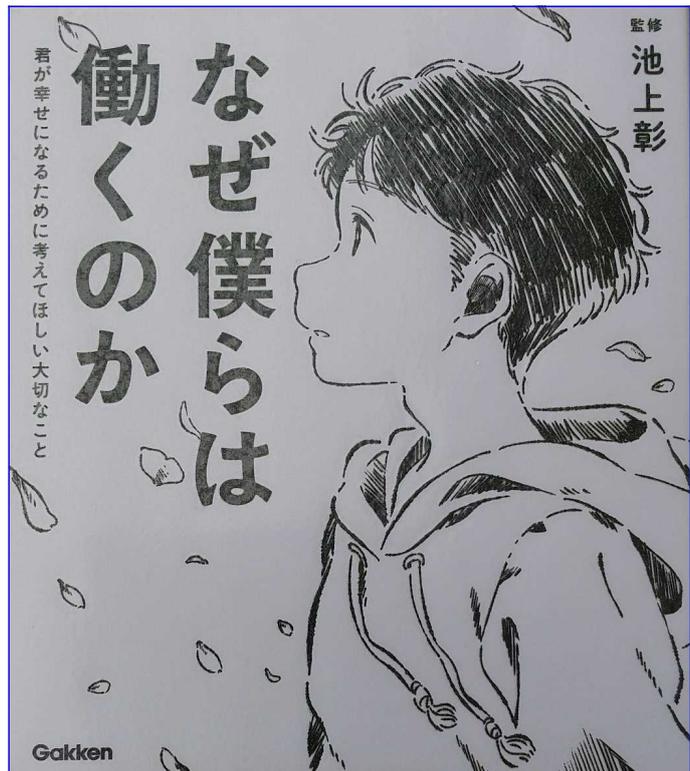
池上 彰 監修 Gakken

仕事，お金，働きがい，AIの台頭，多様性の尊重，働きがい，人生100年時代など，働くうえで考えるべき様々なテーマをマンガと図解で多角的に伝えています。これから社会に出る若者たち，仕事に向き合い悩む大人たちが，未来に明るい希望を持てるように。そんな想いが込められた，温かくて前向きになれる一冊です。

読者からは「働くことへの不安が解消された」「なぜ勉強をするのか」という疑問の答えが分かった」「マンガには共感できる所があり読みやすかった」など感想がありました。

この本の主人公ハヤトは将来に悩む中学生。そんなハヤトがある日，まだ完成していない一冊の本を読むようになります。各章，そんなストーリーマンガが導入となっており，主人公が読む本を読者も読むという展開で構成されています。日々を一生懸命に過ごしながら，世の中や仕事のことについて知り，成長する主人公に自分を重ねることで，スムーズに本の内容が心に響いてきます。眺めるだけでも内容が分かるようにイラストで図解されており，読みやすい良書です。

これまで職業や仕事をたくさんまとめた図鑑形式の本が多数あるなか，仕事の見つけ方，働き方，幸せに働くとはどういうことか，などを扱った全く新しいタイプの仕事に関する本です。生徒の皆さんに是非とも読んでほしい一冊です。



保護者の皆様へ

島内におけるコロナ禍が収まらず，PTA総会の書面開催への変更を引き続き6/4の文化祭についても保護者の皆様には入場を御遠慮いただく御案内をさせていただきました。特に，来場を楽しみにされていた保護者の皆様には，心苦しくかつ申し訳なく感じております。そこで，多くの皆様からの要望に応えまして，昨年引き続き，文化祭DVD等の作成販売をERABUサンサンテレビ様と検討に入っております。まずは，島内で感染症が爆発的に拡大せず無事に文化祭が実施できることを心より祈っております。また，5月下旬からの県高校総体などに各活動が出席しております。最後の出場となるであろう三年生の多くが記憶にも記録にも残る大会となるように，何卒，御理解と御協力のほど，お願い申し上げます。